

令和元(2019)年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	受動型 I o T デバイス網を用いたヒト・モノの状況認識技術の創出
研究代表者	東野 輝夫 (大阪大学・大学院情報科学研究科・教授) ※令和元(2019)年7月末現在
研究期間	令和元(2019)年度～令和5(2023)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>本研究は、バッテリーレスの受動型 IoT センシングデバイスを開発し、ヒトやモノの状態認識技術を創出することを目的としている。開発した技術について、複数の応用事例に対するカスタムメイドのデバイス開発と実証実験を行うことが計画されている。</p> <p>本研究は、バッテリーレス IoT センシングデバイス技術の開発から社会実装までに取り組むものであり、工学的な視点で重要な研究であるとともに、社会への波及効果も期待できる。研究計画は具体的で、研究組織はこの分野で高い実績を持つ研究者から構成されており、十分な研究遂行能力を有している。</p>